

## 保育実習（Ⅱ）の自己紹介の仕方 —学生の手づくり教材について考える—

The way of self introduction at a nursery school practical (Ⅱ)  
— Hand-made teaching materials prepared by students —

寺 島 明 子  
Akiko TERESHIMA

### 1. 問題の動機

保育士養成校の学生で資格を取得したいと望んでいる学生には必ず保育園実習がある。そして実習をする学生は、精神的にも肉体的にも大変なことである。その大変な不安を抱えつつ学生は実習へと向うことになる。その大変な思いを少しでも和らげるための一つの方法として、保育実習の事前準備がある。事前準備の一つとして学生自身の自己紹介がある。この自己紹介を学生が「私は松本短期大学の幼児保育学科の〇〇です。」と子ども達に伝えれば、できないことはない。しかし、対象者が乳幼児期の場合には子ども達の発達段階に合った自己紹介方法があることと、実習で自己紹介の指導案を書き実践してみることは、将来保育士になって行く学生にとって必要な実践方法の一つであると考え。学生自身が実習準備のために自己紹介案を立て、そのための保育教材を準備することの過程の中に保育士としての仕事の一部を経験することになる。乳幼児を対象に何を伝えたいのか、何を育てたいのか、そのためにはどのような方法を取ることが必要なのかを意図的に、仮説しておくことが大切であると考え。

そこで学生自らが考えて準備した自己紹介の仕方における手づくり教材について考えることが、学生の実習に向うための一つの保育方法として必要なことであると考え。

### 2. 研究の目的

保育士養成校の学生は、必ず保育園実習において自己紹介をする。そのためには指導計画を立案し、その時に使用する環境設定の一つに教材の準備がある。準備の一つとして学生自身の自己紹介で準備した教材は、どのような物をどのような時に準備し実習に備えたのかを明らかにする。学生の準備を見ていると手づくり教材で準備していることを筆者も授業の中で奨励しており学生もその方向で学んでいると考えている。したがって、本研究では学生の自己紹介の手づくり教材について明らかにしつつ、自己紹介のあり方についても明らかにしたい。

### 3. 研究の方法と調査の概要

質問紙調査方法を用いて行なう。

本研究

- ①目的：質問紙により「実習で準備した自己紹介教材について」を、学生がどのように捉えているのかを明らかにする。
- ②調査内容：実習で準備した自己紹介教材についてのアンケート
- ③調査期間：2006年12月

④方法：アンケート調査の目的を理解してもらい質問紙を配布し、記載してもらい回収した。

⑤回収率：配布数 2年 56枚 回答数 56 回収率 100%

松本短期大学幼児保育学科2年保育実習（Ⅱ）を選択した学生を対象にして2006年12月にアンケートを実施した。配布数2年56枚 回答数56・回収率100%回であった。下記表は、2年生のアンケートの回収率である。

短大に入学してきた学生は、1年生の7月に幼稚園教育実習を5日間、1年生の10月に保育園実習を2週間Bクラス・施設実習Aクラス、1年生の春休みに保育園実習を2週間Bクラス・施設実習を2週間Aクラス、2年生の6月に幼稚園実習を2週間、2年生の夏休みに選択で保育実習（Ⅱ）を保育園実習で2週間終了した学生56名にアンケートを実施した。

学 年	配布数	回答数	回収率
2	56	56	100%

#### 4. 松本短期大学幼児保育学科2年へのアンケート調査結果

##### （1）実習で準備した自己紹介教材

「実習で準備した自己紹介教材はなにか」について、学生に複数回答可で項目に丸をつけてもらった。表1は2年生の準備した自己紹介教材の回答である。

表1を整理してみると、第1位は「ペープサート」が複数回答延べ72人中24人で、全体の32%であった。2位は「パペット・パネルシアター」が14人で18%であった。4位は「エプロンシアター」が11人で14%であった。5位は「スケッチブック」が6人で8%であった。6位は「手品」で2人3%であった。7位は「絵本・トリック型・軍手で作ったサルの人形・摸摸造紙に絵を描いてクイズ形式・トリック型・画用紙」が1人ずつであった。

すなわち、学生はペープサートの素材は紙であることから扱い易く短時間で簡単に製作していることが分かった。また第2位や3位のパペット・パネルシアター・エプロンシアターは保育実習の教科書の中にも記載されているので、頑張って実習に取り組みたい学生は製作した、と思われる。さらに絵本・トリック型・軍手で作ったサルの人形・摸摸造紙に絵を描いてクイズ形式・トリック型・画用紙の教科書に載っていないものも自分で創意工夫し製作していることが分かった。

表1 実習で準備した自己紹介教材

順位	項 目	人 数
1	ペープサート	24
2	パペット パネルシアター	各14
4	エプロンシアター	11
5	スケッチブック	6
6	手品	2
7	絵本・トリック・画用紙・軍手で作った人形 (各1人ずつ)	1

### ①自己紹介教材を各年齢で変えた学生

「自己紹介教材を各年齢で変えた学生について」年齢ごとに記述してもらった。

0・1歳児ではパペット7人で、スケッチブック2人であった。2歳児ではパペット6人で、スケッチブック1人であった。3歳児ではパペット5人で、パネルシアター2人で、スケッチブック1人で、エプロンシアター1人で、手品1人で、変身パペット1人であった。4歳児はエプロンシアター2人で、絵本1人で、手品1人で、変身パペット1人で、パネルシアター1人で、スケッチブック1人で、パペット+パネル紹介1人であった。5歳児はエプロンシアター5人で、パネルシアター1人で、変身パペット1人で、ペープサート1人で、クイズのペープサート1人であった。

学生はパペットを1・2・3歳児の低年齢児に多く使用していた。しかし、4・5歳児にも使われていることも分かった。またその使われ方は学生の各年齢に合った言葉掛けによる扱いの方法により行なっていることが分かった。4・5歳児ではエプロンシアターも使用されていることが分かった。

### ②各年齢で変えた学生

「各年齢で変えた学生はなぜ年齢ごとに変えたのかについて」、自由に記述してもらった。

学生が回答してきたのは13項目であった。それをまとめると以下ようになった。1・2・3歳児の発達段階を考慮しパペットで握手をして自己紹介をする方法をとっていた。また、スケッチブックに絵だけを描いたものを見せて自己紹介をすることで、子どもは集中して見ていた。また、人形に興味をもっていることが2歳児は多いので、その人形に触れたり遊んだりしながらコミュニケーションを取りたいと思っていた。4・5歳児はエプロンシアターに文字を入れたので、目で字を見て言葉から名前を聞いて覚えてくれた。パペットだけでは飽きてしまうので、ペープサートに文字を入れると4・5歳児の発達段階に合っていた。

したがって、年齢ごとに教材を変えることにより学生の自己紹介方法が子どもに分かり易く提供できる、と考えて変えたことが分かった。

### (2) 自己紹介教材で持っている数と種類

「自己紹介教材で持っている数と種類について」記述してもらった。

学生の総数56名で内訳は以下の通りである(表2-1)。数において1個持っている学生は6人、2個は26人、3個は17人、4個は5人、5個は0人、6個は1人、7個は0人、8個は1人、であった。

一番多く持っているのは8個で、1人であったが、2個の学生が一番多く26人で、3個持っている学生は17人であった。

持っている種類の第1位はパペット42人で、第2位はペープサート31人で、第3位はパネルシアター19人で、第4位はスケッチブック14人で、第5位はエプロンシアター13人で、第6位はパペット+画用紙2人で、第7位は手品2人で、第8位は紙芝居・画用紙・模造紙・手袋に名前と自分の好きなものをつけたもの・絵本・変身パペット・軍手の人形・名札(一人で4個)であった。

したがって、パペットが第1位で、学生数56人中42人のほとんどの学生が準備していることが分かった。パペットは持ち運びも簡単で、安い材料費で直ぐに作るできるので、学生にとっては使用し易い保育教材であることが分かった。

表 2-1 持っている教材の数

順位	人 数
1	6
2	26
3	17
4	5
5	0
6	1
7	0
8	1

表 2-2 自己紹介教材の持っている数

順位	項 目	人 数
1	パペット	42
2	ペープサート	31
3	パネルシアター	19
4	スケッチブック	14
5	エプロンシアター	13
6	手品	2
7	パペット十画用紙	2
8	紙芝居・画用紙・模造紙・折り紙・変身パペット 軍手の人形・名札で一人で4個（各1人ずつ）	1

### （3）実習で準備した自己紹介教材

実習で準備した自己紹介教材を手づくり、一部手作り、既成、一部既成の種類から選んでもらった。1位は手づくりが51人で、2位は一部既成が3人で、3位は1部手づくりと既成が1人であった。

したがって、学生の56人中51人が手づくりの教材を準備し実習に行ったことが分かった。

表 3 自己紹介で準備した教材

番号	種 類	人 数
1	手づくり	51
2	1部手づくり	1
3	既成	1
4	1部既成	3

#### ①手づくり教材にした理由

「手づくり教材にした学生の理由について」自由に記述してもらった。

手づくり教材にした学生の項目の総数は51でそれを同じ項目ごとに7種類にまとめた。第1位は「自分で伝えたい部分を自分で作れるのでよい」で、29人であった。2位は「手づくりの温かさ

がある」で、13人であった。3位は「子ども達も親しみが持てると作るのが楽しく自分の作ったものが好き」で、11人であった。4位は「作っている時実習に向える気持ちになる」で、4人であった。5位は「たった一つしかないと安く出来る」で、1人であった。

したがって、学生は実習に向う時実習の目的である実習中に自分自身が行う保育内容の一つとして自己紹介をすることが、位置づいていることが分かった。それはなぜ手づくりにしたのか、という質問に対して「自分で伝えたい部分を自分で作れるのでよい」、の項目が第1位で29人の学生が答えていた。次に「手づくりで教材の準備をすると手作りの温かさがある」ことを上げている。さらにそれは「子ども達も親しみが持て、学生が作るのが好きで自分の作ったものが好きなこと」を11人が答えていた。そして実習に向かう気持ちに積極的に迎えるものとなり、実習でのやり易さの一つの方法となっていることも分かった。そのものは安く出来上がり、世界に一つだけのものであると考えている学生もいた。

## ②既成教材にした理由

「既成教材にした学生の理由について」自由記述をしてもらった。

既成教材にした学生は1名で、パペットの製作は自分には難しくかわいいものが売っていたのでそれを使用した。絵本は自分で読んでみて楽しかったから、子ども達も見たいし楽しくなると思った、であった。

したがって、学生は自分で製作できないものは既成の物を買って教材としながら、自分で経験した楽しいと思ったもので子どもに与えたいと思っていることが分かった。つまり、自分自身が経験した楽しいもので子どもにも経験させることに、保育的意味を見出していることが分かった。

## ③一部手づくり教材にした理由

「一部手づくり教材にした学生の理由について」自由記述をしてもらった。

1部手づくり教材にした学生は1名で、その教材として「スケッチブックは既製で、それに絵を描き込んだものなので一部手づくりとした」であった。また「売っているものそのものをそのまま使っても良いのだけれど、少しは手を入れた方が良いと思った」でした。

保育実習の教科書には載っていない保育教材であるスケッチブックを使い絵と名前を書いて自己紹介する方法を取っている学生が1人いた。つまり、オリジナルで考えた自分だけの教材になったと言えよう。このことはこの方法が経費も余りかからず、時間も掛からず、保存しておくのにも簡単な方法であることが分かったので、この方法で製作していることが分かった。

## ④一部既成にした理由

「一部既成にした学生の理由について」自由記述にってもらった。

一部既成にした学生は3名で、エプロンシアターを100円で買ってきて製作したので一部手作りとなった。エプロンシアターの場合エプロンから作ると大変であるから既成のものを使用することはよくあることである。保育教材準備の基本は自らが準備することであるが、その時の状況に合わせて臨機応変に対応してくれれば良いと考える。

## (4) 自己紹介教材の準備した時期

自己紹介教材の準備した時期を1～4番号に自由に丸をしてもらった。1番実習1ヶ月以上前28

人で、2 番実習 1 週間以内 27 人（実習 1 ヶ月以内 4 人・実習 2 週間以内 1 人を含む）で、3 番実習中 1 人で、4 番実習後 0 人でした。

その理由として「早めに準備していると他にも作りたいものが見つかる」、「早くから準備しておいた方が、負担にならないと思ったから」と考えていることが分かった。この結果から実習後は 0 人であることから、学生は今回が最後の実習であり、実習後に準備しても意味のないことは分かっている、ことが分かった。

表 4 自己紹介で準備した教材

番号	項 目	人 数
1	実習 1 ヶ月以上前	28
2	実習 1 週間前（1 ヶ月以内 4 人・2 週間以内を 1 人を含む）	27
3	実習中	1
4	実習後	0

（5）自己紹介教材を使用した時、子ども達に自分の名前が伝わった学生と伝わらない学生の数  
自己紹介教材を使用した時、子ども達に自分の名前が伝わった学生と、子ども達に自分の名前が伝わらなかった学生に「はい・いいえ」のどちらかで答えてもらった。

子ども達に自分の名前が伝わったと答えた学生は 52 人で、子ども達に自分の名前が伝わらなかったと答えた学生は 4 人であった。

したがって、ほとんどの学生は自分で準備した教材で、自己紹介しその結果子ども達に自分の名前が伝わったことを感じていることが分かった。

#### ①子ども達に自分の名前が伝わった学生の感じ方

「子ども達に自分の名前が伝わった学生の感じ方について」自由に記述してもらった。（表 5 参照）子ども達に自分の名前が伝わった学生の感じ方で、第 1 位は「自己紹介後直ぐに呼んでくれた時」が 14 人で、第 2 位「遊んでいる時『〇〇先生』と言ってくれた時」が 12 人で、第 3 位は「名前を何度も呼んでもらえた時」が 6 人で、第 4 位は、「名前を覚えてくれた時」・「ものの頭文字から〇〇先生と言われた時」が 5 人で、第 5 位は「クラスに入っていない子ども達にも名前を呼んでもらえた時」4 人で、第 6 位は「名前を促すとしっかりと言ってくれた時」が 2 人で、第 7 位「子ども達との受け答えが上手くできた時」・「自己紹介通りに絵の前で呼んでくれた時」・「自己紹介の教材を見たい時」・「活動中に呼ばれた時」・「パネルシアター楽しかったなど声を掛けてくれた時」が各 1 人ずつでした。

したがって、自己紹介をして後の学生自身の名前を直接子どもから言われた時に感じていることが分かった。その時期は自己紹介をした直ぐ後に呼ばれる時と遊んでいる時に呼ばれるときが、学生自身に名前が伝わった時であることが分かった。

表5 子どもに自分の名前が伝わった時

順位	項目	人数
1	自己紹介後直ぐに呼んでくれた時	14
2	遊んでいる時「〇〇先生」と言ってくれた	12
3	名前を何度も呼んでもらえた時	6
4	名前を覚えてくれた時 ものの尻取りから〇〇先生と言った時	5
5	クラスに入っていない子ども達にも名前を呼んでもらえた	5
6	名前を呼ぶように促すとしっかりと言ってくれた時	4
7	子ども達との受け答えが上手くできた時 自己紹介通りに絵の前で呼んでくれた時 自己紹介の教材を見たいと言われた時 活動中に呼ばれた時 パネルシアター楽しかったなど声を掛けてくれた時	2

## ②子ども達に自分の名前が伝わらなかった学生の感じ方

「子ども達に自分の名前が伝わらなかった学生の感じ方について」自由に記述してもらった。

子ども達に自分の名前が伝わらなかった学生の感じ方は、今回保育教材を使わずに自己紹介をした学生が2名いた。また年齢にあった教材でなかったために、逆効果をもたらし中々覚えてもらえなかった。子どもの年齢が低かったので名前の理解は難しい部分があった。しかし、それでも興味を持ってくれたので、印象には残ったと思う、との感じ方でした。

したがって、子ども達に自分の名前が伝わらなかった学生は、感じることに以前に自分自身が積極的に自己紹介をすることすることを辞めてしまった学生は2名おりとても残念であった。一方年齢にあった教材でなかったために子どもに伝わった実感をもてなかった学生は、積極的に課題に取り組もうとしているので今後期待できると言えよう。実習経験も5回の実習を経験してくると学生自身の創意工夫が出現し、自らが作り出す力を身に付けたと言えよう。

## (6) 自己紹介教材を準備している時の気持ち

「自己紹介教材を準備している時の気持ちについて」自由記述をしてもらった。

自己紹介教材を準備している時の気持ちは総数86個の記述があった。86個の記述をさらに同類と考えられるものを整理し、6項目にまとめた。

第1位は「子どもたちが興味をもち楽しく遊んでもらえるように作った」が38人、第2位は「子ども達に伝わり易いように見やすく作った」が19人、第3位は「子どもたちが直ぐ名前を覚えてくれるように作った」が16人、第4位は「子ども達にどのように演じたら伝わるのかを考えながら作った」が10人、第5位は「年齢に合っているか」が2人、第6位は「想像力がつく」が1人であった。

したがって自己紹介教材を準備している時の気持ちは、子どもたちが興味をもち名前を覚え楽しく遊んでもらえるように作っていたことが分かった。

表6 どのような気持ちで準備したか

順位	項 目	人数
1	子どもが興味を持ち楽しく遊んでもらえるように作った	38
2	子ども達に伝わり易いように見やすく作った	19
3	子どもたちが直ぐ名前を覚えられるように作った	16
4	子ども達にどのように演じたら伝わるのかを考えながら作った	10
5	年齢にあっているものを作った	2
6	想像が付くように作った	1

## (7) 自己紹介教材を使い披露した時の気持ち

「自己紹介教材を使い披露した時の気持ちについて」自由記述してもらった。

自由記述してもらったものを分類すると総数は89個記述があった。89個記述をさらに同類と考えられるものを整理すると9項目になった(表7参照)。記述は89個あったが、これを同類の9項目にまとめてみた。

第1位は「楽しんでくれて嬉しかった」が22人、第2位は「緊張した」が17人、第3位は「子ども達の反応が良くて安心した」が16人、第4位は「子ども達に伝わるのか不安な気持ちになった」が12人、第5位は「保育教材を作って良かった」が10人、第6位は「楽しみながらできた」が5人、第7位は「自己紹介ができて安心した」が4人、第8位は「練習した時よりもあまり上手く行かず残念な気持ちだった」が2人、第9位は「恥ずかしかった」が1人であった。

したがって、自己紹介教材を使い披露した時の気持ちは、子どもが楽しんでくれて嬉しかったことであった。また、自己紹介の際緊張しながらも子どもの反応のよさに安心していることも分かった。

表7 教材を使い披露した時の気持ち

順位	項 目	人数
1	楽しんでくれて嬉しかった	22
2	緊張した	17
3	子ども達の反応が良くて安心した	16
4	子ども達に伝わるのか不安な気持ちになった	12
5	保育教材を作ってよかった	10
6	楽しみながらできた	5
7	自己紹介ができて安心した	4
8	練習した時よりも余り上手く行かず残念な気持ちだった	2
9	恥ずかしかった	1

## (8) 自己紹介教材の改善点

「自己紹介教材を準備して実際にやっでの改善点について」自由記述してもらった。

自由記述してもらったものを分類すると総数は66個記述があった。66個記述をさらに同類と考えられるものを整理すると7項目になった(表8参照)。記述は66個あったが、これを同類の7項目にまとめてみた。



第1位は「練習をしておけばよかった」が29人、第2位は「教材を活かすように考えれば良かった」が23人、第3位は「他の教材でもやってみたかった」が5人、第4位は「何度も練習したので途中で壊れてしまった」が4人、第5位「自分で楽しんでやればなお楽しかった」が2人、第6位は「年齢に合ったものを作る」が2人、第7位は「担当の先生に褒められた」が1人であった。

したがって自己紹介教材を準備して実際にやっての改善点は実習前に教材を活かすように練習をしておけばよかったことが分かった。

表8 自己紹介教材の改善点

順位	項 目	人数
1	練習をしておけばよかった	29
2	教材をいかすように考えれば良かった	23
3	他の教材でもやってみたかった	5
4	何度も練習したので途中で壊れてしまった	4
5	自分で楽しんでやればなお楽しかった	2
6	年齢にあったものを作る	2
7	担当の先生に褒められた	1

#### (9) 今回の自己紹介と過去の自己紹介の時の比較

「今回の自己紹介と過去の自己紹介の時と比較について」自由記述してもらった。

自由記述してもらったものを分類すると総数は92個記述があった。92個記述をさらに同類と考えられるものを整理すると10項目になった(表9参照)。記述は92個あったが、これを同類の26項目にまとめた。

第1位は「堂々とした態度でできた」が11人、第2位は「子ども達の反応を見ながらできてよかった」が10人、第3位は「2回目だったので落ち着いて子どもの反応を見ながら進めることができた」が9人、第4位は「子ども達の目を見ながらできるようになった」が8人、第5位は「声のメリハリができるようになった」が7人、第6位は「自信を持ってできた」が6人、第7位は「教材が有るのとないのでは、覚えてもらえる度合いが違うと思った」・「自然に自己紹介できるようになった」、「恥ずかしさがなくなった」が4人であった。第8位は「初めて作ったものよりだいぶ上達した」、「子ども達からの言葉掛けに対して受け答えができるようになった」、「第クイズ形式でやったので、子どもたちが楽しんでくれた」、「準備が十分できたので上手くできた」、「子どもたちが楽しみながら、自己紹介できた」が3人であった。第9位は「子ども達への言葉掛けの仕方が変わった」、「楽しみながらできた」、「年齢によって反応が変わってくる」が2人でした。第10位は「人数が多く子ども達に見難かった」、「3・4・5歳と同じエプロンシアターを使い、年齢別に話し方を変えた」、「反応が良かった」、「違うものにもチャレンジしたい」、「工夫する点も沢山あった」、「絵本で今回はやってみたが、楽しんでくれたので色々な方法があると思った」、「直ぐに名前を覚えた」、「手品をすることで子どもの興味を引き出した」が各1人ずつであった。

したがって今回の自己紹介と過去の自己紹介の時と比較してみると、実習も5回目となり、子

ども達の反応の把握は目を見ながら落ち着いて、声のメリハリをつけて自然に堂々とできるようになった、と記述していることが分かった。

表9 過去の自己紹介の時と今回と比べて自分で感じた違い

順位	項 目	人数
1	堂々とした態度でできた	11
2	子ども達の反応を見ながらできて良かった	10
3	2回目だったので落ち着いて子どもの反応を見ながら進めることができた	9
4	子ども達の目を見ながらできるようになった	8
5	声のメリハリができるようになった	7
6	自信をもってできた	6
7	教材が有るのと無いのでは、覚えてもらえる度合いが違と思った 自然に自己紹介できるようになった 恥ずかしさが無くなった	4
8	初めて作ったものより大分上達した 子ども達からの言葉掛けに対して受け答えができるようになった クイズ形式でやったので子ども達が楽しんくれた 準備が十分できたので上手にできた 子どもたちが楽しみながら自己紹介できた	3
9	子どもたちへの言葉掛けが変わった 楽しみながらできた 年齢によって反応が変わってくる	2
10	人数が多く子ども達に見難かった 3・4・5歳児と同じエプロンシアターを使い、年齢別に話し方を変えた 反応がよかった 違うものにもチャレンジしたい 工夫する点も沢山あった 絵本で今回はやってみたが楽しんくれたので色々な方法があると思った 直ぐに名前を覚えた 手品をすることで子どもの興味を引き出した	1

#### (10) 自己紹介教材の材料費

「自己紹介教材の材料費について」学生に価格を記述してもらった。

価格は手づくりで家にあった廃材を一部使用し一部買った人は、教材全部の概算で書いてもらった。また年齢ごとに教材を買った人は、各々別々に書いてもらった。

- ①手づくりの教材費で0円は5人、100円は3人、200円は5人、300円は4人、500円は6人、600円は1人、700円2人、900円1人、1,000円9人、1,400円1人、1,500円、2,000円2人、2,300円1人、2,500円1人、3,000円5人、5,000円1人、6,000円1人、10,000円1人であった。
- ②1部手づくりの教材費で100円は2人、400円1人であった。
- ③既成の教材費で800円1人、1,000円1人であった。
- ④1部既成の教材費で100円1人、1,500円1人、2,500円1人、2,600円1人であった。

したがって、手づくりの教材費で一番多かった額は1,000円で9人、続いて500円で6人、0円・

200円・500円・3,000円で5人、300円で4人であった。また平均額は1,302円であった。つまり、学生の手づくり自己紹介教材費は一人平均1,000円であることが分かった。

一部手づくりの教材費で100円は2人、400円1人であった。また平均額は200円であった。つまり学生の3人はスケッチブックを購入した額であった。

既成の教材費では800円1人、1,000円1人であった。また平均は900円であった。つまり学生の2人はパベットの価格であった。

1部既成の教材費で100円1人、1,500円1人、2,500円1人、2,600円1人であった。また平均は1,675円であった。つまり学生はパベットにつけるフェルトや小物とエプロンシアターのエプロンの価格であった。

したがって学生の自己紹介教材費は平均1,019円であった。学生は大体1,000円を使い自己紹介教材費を提供して準備していることが分かった。

表10-1 教材の材料費（手づくり）

順位	値 段(円)	人数
1	0	5
2	100	3
3	200	5
4	300	4
5	500	6
6	600	1
7	700	2
8	900	1
9	1,000	9
10	1,400	1
11	1,500	1
12	2,000	2
13	2,300	1
14	2,500	1
15	3,000	5
16	5,000	1
17	6,000	1
18	10,000	1

表10-2 教材の材料費（一部手づくり）

番号	値 段(円)	人数
1	100	2
2	400	1

表10-3 教材の材料費（既成）

番号	値 段(円)	人数
1	800	1
2	1,000	1

表10-4 教材の材料費（既成）

番号	値 段(円)	人数
1	800	1
2	1,000	1
3	2,500	1
4	2,600	1

## (11) 自己紹介をする時、紹介教材を使用せず行なう方法

「自己紹介をする時、紹介教材を使用せず行なう方法について」自由に記述してもらった。

自由記述してもらったものを分類すると総数は72個記述があった。72個の記述をさらに同類と考えられるものを整理すると7項目になった。(表11参照)記述は72個あったが、これを同類の7項目にまとめた。

第1位は「言葉で伝える」が30人、第2位は「歌で伝える」が16人、第3位は「手遊び」が14人、第4位は「身体表現（ゲームを含む）」が6人、第5位は「クイズ」が4人、第6位は「物語」が2人、第7位は「手品」が1人でした。したがって学生は自己紹介をする時、紹介教材を使用せず行なう方法は、言葉で伝えることが一番多いことが分かった。つまり学生にとって言葉を使用することが子どもに伝わり易い方法だと考えていることが分かった。次に歌や手遊びを使い子ども達に伝える方法を考えていることも分かった。このことは授業の中で学んだことを使用しようと考えていることも分かった。

したがって、学生は言葉を媒介に伝えようと考えつつも、子どもの特徴を考えた時には、子どもにとって楽しいことを考えて子どもに無理がないように提供しようとしていることも分かった。

学生が言葉で伝える言葉は「印象深いことを言って自分のことをわかってもらう」ことで具体的には「自分の好きな食べ物や動物名を言って「○○の好きな人」と子どもの同意を得て名前を覚えてもらう。また、「名札の名前を指差しながらゆっくり言う」、「クイズ形式にして言葉で教える」、「ゆっくり大きな声で子どもたちに名前を伝える」、「口を大きく開けて、口の形で当ててもらう」、「頭文字が同じ他の物を言い伝える」、「好きなものと名前を関連させて言う」、「子どもとやりとりをしながら紹介する」、「やさしく問いかけながら紹介する」、「物語を作って語る」、「遊びを取り入れながら紹介をする」であった。それらを伝える方法としては、「アクションを大きめにする」ことであった。

表11 紹介教材を使用せず行なう方法

順位	項 目	人数
1	言葉で伝える	30
2	歌で伝える	16
3	手遊び	14
4	身体表現（ゲームを含む）	6
5	クイズ	4
6	物語	2
7	手品	1

## 6. 考察

5では「学生の自己紹介手づくり教材準備について」結果や考察をしてきた。それは学生が実習に向う時手づくり教材を主として準備していることで実習の不安が少し緩和されていることが分かった。ここではさらに「自己紹介の仕方学生の準備した手づくり教材」について検討する。

### (1)「実習で準備した自己紹介教材」と「自己紹介教材を各年齢で変えた人とその理由」

実習で準備した教材はペープサートで複数回答総数72人中24人であり、パペットとパネルシアターは14人であった。一番多く準備してあるペープサートは各年齢で変えた教材の中には入っていないが、パペットは0・1歳児で7人、2歳児では6人、3歳児では5人が変えた教材で、各年齢で変えた理由は1・2・3歳児の発達段階に合わせてパペットを使用していることが学生の記述から明らかにできた。また3歳児に0・1歳児と同じパペットを使用しながらも、4・5歳児と同じ教材のパネルシアターを使用していることも分かった。

4・5歳児はパペットのように子どもに直接さわって親しみをもつ教材ではなく、目で見えて学生の名前を理解できるものに変えて提供していると考えられることができる。

つまり、学生は教材作りで作り易いペープサートを作りつつ、子どもたちに提供する時は子ども達の特性や発達に合わせた教材を準備していると考えられる。

### (2)「自己紹介教材の種類」と「数」と「手づくり・一部手づくり・既成・1部既成」「自己紹介の準備の時期」の関係

学生の持っている自己紹介教材の種類はパペットで42人でしたが、今回実習のために準備した教材はペープサートで総数72人中24人(表1)であった。パペットは今回の実習では14人が準備していた。学生がこれだけの数の自己紹介教材を持っているということは、今回の実習以前の実習で準備したと考えられる。また今回準備した自己紹介教材は総数75個準備していた。今回の実習以前に準備している数は131個であるので学生は、今回の実習が最後ということもあり75個の自己紹介教材を準備したことが考えられる。

つまり学生は今回の実習では、一人平均2.3個の自己紹介教材を準備したことになった。またそれらの教材は手づくりで準備している(表3)に51人が答えていたことで明確になった。

手づくり教材を準備した学生は、(表3)「自分で伝えたい部分を自分で作れるのでよい」で、56人中29人が答えている。手づくりできなかった学生は、パペットを作ることは苦手なので既成のものを購入したと答えていた。また一部手作りの学生は、スケッチブックやエプロンを買ひ、そこに自己紹介の名前を描いたことを理由としてあげている。

また自己紹介の教材を準備した時期は「実習一ヶ月以上前に製作している」が28人と一番多い。

(表4)このことは学生が早めに準備することで、実習に向う気持ちを持たせることを、一番の目標としていることが考えられる。実習中に1名の学生が自己紹介の教材を準備しているが、実習を終わってから準備している学生は1名もいなかった。(表4)

### (3)「どのような気持ちで準備したのか」と「教材を使い披露した時の気持ち」と「子どもに自分の名前が伝わった時」の関係

自己紹介教材の準備は手づくりであることからどのような気持ちで準備したのか、(表6)で「子どもが興味をもち楽しく遊んでもらえるように作った」が一番多く38人、このことは学生が、実習にいく園の子ども達のことを心に描いて製作していると考えられる。さらに「子ども達に伝

わり易いように見やすく作った」19人、「子ども達が直ぐ名前を覚えてくれるように作った」16人で、このことにおいても学生は、子どもたちのために自分の名前が子どもに分かってもらえるように、製作していることが考えられる。

子どもに披露した時の気持ちは（表7）で子どもが「楽しんできて嬉しかった」22人と回答しており自分の気持ちよりも子どもにとってどうなのか、保育をして行く者の立場として一番大切な目標を子どもが楽しいことに置いていることは、質の高い保育士になって行くことができる学びとして必要なことであると言えよう。

その後子ども側からの評価として、子どもに自分の名前が伝わった時は表5において「自己紹介後直ぐに呼んでくれた時」14人、「遊んでいる時『〇〇先生』と言ってくれた」12人でした。したがって、学生は自分の名前を子どもが呼んでくれた時に伝わったと感じていることが考えられる。

つまり学生は子どもが楽しんでもらえるように作り、楽しんできて嬉しかったことを実感し、その結果子どもから名前を呼んでもらうことで、自分自身が自己紹介準備をしてよかったことを獲得したと言えよう。

#### （4）「自己紹介教材の改善点」と「今回の自己紹介と過去の自己紹介の時の比較」と「自己紹介教材の材料費」と「自己紹介をする時、紹介教材を使用せず行なう方法」

自己紹介教材の改善点は、表8で第1位は「練習をしておけばよかった」29人、第2位は「教材を活かすように考えればよかった」23人であった。

したがって、学生は自分で製作することに精力を使い果たし、実習本来の目的の「子どもに自分の名前を伝えるにはどのように伝えればいいのか」と言うことまで気持ちが続かなかったと考える。しかし、前回の実習よりも改善されたことはあった。第1位は「堂々とした態度でできた」11人、第2位「子ども達の反応を見ながらできてよかった」10人、第3位は「2回目だったので落ち着いて子どもの反応を見ながら進めることができた」9人で、学生は子どもの反応の目をみながら落ち着いて堂々と自己紹介していることができています。

したがって、学生は自己紹介で練習をしておけばよかったといいつつも、堂々と自己紹介ができていたことも感じていると言えよう。

その時準備した教材費は手づくり教材で1人1,000円が9人と一番多く（表10）であり、全体の平均1人1,019円であった。学生はおおよそ1,000円のマテリアル費を使い準備していると言えよう。

手づくり教材の準備として考察してきたが、次に手づくり教材以外で自己紹介するとすればどのように自己紹介をするのかを検証してみた。その方法として学生は表11に第1位は「言葉で伝える」30人、「歌で伝える」16人、「手遊び」14人であった。第1位の「言葉で伝える」は、学生にとって子どもに自分の名前を伝える方法として、自分の生活範囲の日々の生活の中で使用していることばを媒介に伝えよと考えたと言えよう。さらに第2位や3位においては、学校で学んだ歌や手遊びを用いて自己紹介をしようと考えたと言えよう。

## 7. 今後の課題

学生の準備した手づくり教材について考えてきたが、手作り教材だけが自己紹介の方法ではないしすべての学生に該当できるものでもない。全員の学生に手づくり教材の支援を授業の中で行なっているが、2名の学生は、自己紹介の教材を作りつつも、実際にそれを使用し実習をしてい

ないことが今回分かった。保育園でできなかった理由があると思うが、実習前のオリエンテーションの時にどの程度自己紹介の必要性を説明できたのか、と言うことも大きな課題であると考ええる。実習は学生自身が具体的に活動してこそその目的が達成できると考える。そこの部分の支援をしていかななくてはならないが、一人ひとりの学生の個性もあり難しいことであると考ええる。しかし、「保育園実習（Ⅱ）自己紹介の仕方」—学生の準備した手づくり教材について考える—は、6 考察の中に記述されている。

「実習で準備した自己紹介教材」と「自己紹介教材を各年齢で変えた人とその理由」では、学生が教材作りで作り易いペープサートを作りつつ、子どもたちに提供する時は子ども達の特性や発達に合わせた教材を準備している。

「自己紹介教材の種類」と「数」と「手づくり・一部手づくり・既成・1部既成」「自己紹介の準備の時期」の関係において、今回の実習で学生は一人平均 2.3 個の自己紹介教材を準備した事になった。手づくり教材を準備した学生は表 3 で「自分で伝えたい部分を自分で作れるのでよい」で 56 人中 29 人が答えている。また自己紹介の教材を準備した時期は実習一ヶ月以上前に製作しているが表 4 で 28 人と一番多い。このことは学生が早めに準備することで実習に向う気持ちを持たせることが一番の目標であることが考えられる。

「どのような気持ちで準備したのか」と「教材を使い披露した時の気持ち」と「子どもに自分の名前が伝わった時」の関係では、学生は子どもが楽しんでもらえるように作り、楽しんでもらって嬉しかったことを実感し、その結果子どもから名前を呼んでもらうことで、自分自身が自己紹介の準備をしてよかったことを獲得した。

「自己紹介教材の改善点」と「今回の自己紹介と過去の自己紹介の時の比較」と「自己紹介教材の材料費」と「自己紹介をする時、紹介教材を使用せず行なう方法」では、自己紹介教材の改善点は、表 8 で第 1 位は「練習をしておけばよかった」29 人で、学生は「自己紹介で練習をしておけばよかった」といいつつも、前回の実習よりも改善されたことの第 1 位は、「堂々とした態度でできた」11 人で、堂々と自己紹介ができていたことも感じている。

その時準備した教材費は手づくり教材で 1 人 1,000 円が 9 人と一番多く（表 10）であり、全体の平均 1 人 1,019 円であった。したがって学生は、おおよそ 1,000 円の材料費を使い準備していることが分かった。

「手づくり教材以外で自己紹介するとすればどのように自己紹介をするのか」では、第 1 位の言葉で伝えるは、学生にとって子どもに自分の名前を伝える方法として、自分の生活範囲の日々の生活の中で使用していることばを媒介に伝えよと考えた。さらに第 2 位や 3 位においては、学校で学んだ歌や手遊びを用いて自己紹介をしようと考えた。

本研究では「保育園実習（Ⅱ）自己紹介の仕方」—学生の準備した手づくり教材について考える—について視点をおいて考えてきた。学生の準備した手づくり教材については学生が実習をしていく一つの方法として必要なものであり、その方法として子どもの特徴や発達段階を考えて「子どもが楽しい」と思えるように手作りで準備して行くことであった。しかし、学生の実習準備は自己紹介以外にもあると考える。したがって今後の課題は、学生が実習に臨める援助のあり方をさらに研究していきたいと考える。

## 資料

## 実習で準備した自己紹介教材についてのアンケート

実習担当 寺島 明子

このアンケートは実習での自己紹介の効果について調査するものです。

2年生の8月21日～9月1日までの間に行なった実習での自己紹介教材について答えて下さい。  
名前を書く必要はありません。

1. 実習で準備した自己紹介教材は何ですか。番号に○をして下さい。

1. パペット      2. ペープサート      3. パネルシアター      4. エプロンシアター      5.  
その他（ ）

- ①自己紹介教材を各年齢で変えた人は年齢ごとに書いて下さい。

- 0,1 歳児 ( ) 2 歳児 ( )  
3 歳児 ( ) 4 歳児 ( )  
5 歳児 ( )

- ②各年齢で変えた人はなぜ年齢ごとに変えたのか、その理由を書いて下さい。

2. 自己紹介教材でどんなものを幾つ持っていますか。数と何を持っているのかを書いて下さい。

- ・数（                  個 ）
- ・種類（                                  ）

3. 今回の実習で準備した自己紹介教材を下記から選んで下さい。番号に○をして下さい。

1. 手づくり      2. 1部手づくり      3. 既成      4. 一部既成

- ① 3の理由を書いて下さい。

- ①手づくりに○をした人は、なぜ手づくりにしたのですか。

- ②既成に○をした人は、なぜ既成にしたのですか。

- ③ 1部手づくりに○をした人は、なぜ1部手づくりにしたのですか。

- ④一部既成に○をした人は、なぜ一部既成にしたのですか。



4. 自己紹介教材をどのような時期に準備しましたか、番号に○をして下さい。

1. 実習1ヶ月以上前      2. 実習1週間以内      3. 実習中      4. 実習後

5. 自己紹介教材を使用した時、子ども達に自分の名前が伝わったと感じましたか。どちらかに○をして下さい。

1. はい      2. いいえ

① 5の理由を書いて下さい。

①はいに○をした人は、どのような時に感じましたか。

( )

②い이에に○をした人は、どのような時に感じましたか。

( )

6. 自己紹介教材を準備している時どのような気持ちで準備しましたか、記入して下さい。

( )

( )

7. 自己紹介教材を使い披露した時の気持ちはいかがでしたか。記入して下さい。

( )

( )

8. 自己紹介教材を準備して実際にやってみてこうすればよかった。と思うことがありましたか。記入して下さい。

( )

( )

( )

9. 今回の自己紹介では過去の自己紹介の時と比べて、自分で感じた違いを書いて下さい。

( )

( )

( )

10. あなたの準備した自己紹介教材の材料費は、いくらですか。一部買った人は教材全部の概算で書いて下さい。また各年齢ごとに教材を買った人は、各々別々に書いて下さい。

①手づくり ( 円)

②1部手づくり ( 円)

③既成 ( 円)

④一部既成 ( 円)

0,1 歲兒 ( ) 2 歲兒 ( )  
3 歲兒 ( ) 4 歲兒 ( )  
5 歲兒 ( )

11. 自己紹介をする時、紹介教材を使用せず行なうとすれば、どのように行ないますか、記載して下さい。また、他の方法ですで行なっている人はその方法を記載して下さい。

アンケートのご協力ありがとうございました。